

—大庄北中の誕生—

11月12日(土)の式典に備えて、北中創立に向けた当時の関係者(育友会、地域、先生、生徒等)の話を記念誌からひろってみます。まずは、読んでみてください。

「昭和35年4月、大庄東中学校は生徒数1,965名、学級数38という空前のマンモス校にふくれあがった。いくら校舎を増築しても急増する生徒を収容しきれず、ついにパイプ教室までおめみえした。夏は蒸し暑く、雨が降れば、先生の声もかき消される。その上、テニスコートの一部は削られていく。さらに翌36年には44学級と推定され、中学校の必要性がひしひしと地区の人たちの胸に刻まれ、学校創設運動へとかりたてた」とある。

昭和36年4月、大庄東中学校より分離開校、大庄北中学校は誕生した。極端な表現かもしれないが、無からの出発と言っても過言ではないスタートだった。校舎は未完成、グラウンドは石ころだらけで、しかも未買収地があるというような状況で開校されたのである。

大庄東中学校の分離校設置の決定を市から受けたときが、最も印象に強く刻まれている。しかし、それまでに大庄東中学校が年々生徒の増加に校舎の増築を重ね、毎年、市に陳情を行い、学校側と育友会は共に苦しんだ。しかし、分離校設置は決定されても敷地の確保の見通しが立たず、開校予定日だけが迫り、市に再三足を運んでも市も敷地確保に頭を抱えているだけであった。

こんな状態では我々育友会としてもただだまって見ているだけではだめで、現在の北中学校の場所の一部未買収の土地があったけれども、それは後日の問題として、とりあえず建設に踏み切ってもらうことにした。

—中略— 大庄北中学校の第一回入学式は昭和36年4月、浜田小学校校庭で行われた。1年生578名(11学級)、2年生524名(10学級)計1,102名(21学級)教職員31名。

用地買収の遅れのため小学校の校庭で入学式を余儀なくされたが、校庭は石ころだらけで半分は田圃、机や椅子も揃わないありさまだった。その上、予算の関係もあってか、南校舎の完成が遅れ、そのためバラック校舎で授業をせねばならないほどだった。

どのようにして北中が誕生したのか、その当時の様子が少しはわかったでしょうか。私も含めて、これだけで理解できるとは思っていないですが、後はちょっと想像してみましよう。50周年に当たったわたしたちです。次の50年に向けて、開校の意味を知っておくことは北中生徒として意義あることだと思います。次回も当時の学校の様子を紹介します。